

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	東京医科大学	整理番号	1-3-064
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	医学生を対象とした臨床能力評価システム －Advanced OSCE と FD－		
申請単位	大学全体		
申請担当者	松岡 健		
<p>(取組の概要)</p> <p>本学の臨床医学教育への取組目的は「適切な診療態度と高い診療技能を備えた良医の育成」にある。その手法として、本教育の構築、1つは学習者に対して、客観的臨床能力試験 (OSCE) を Basic OSCE (模倣的) から Advanced OSCE (実践的) へと展開し、他は、指導者の FD を実施し教育評価の能力開発を進めた。この段階的 OSCE (Advanced OSCE) と FD の手法を用い、特色ある方法を確立した。本教育技法は、相乗することにより、結果として高い臨床レベルの教育効果が得られる。</p> <p>本学の OSCE 導入は 1997 年度に始まり、先覚的に研究・開発を進めてきたが、患者面接および各臓器分野の診断技法こそが医学生の安全かつ功緻な診断能力を開発しえると考える。一方、教員 FD の本学医学教育ワークショップは 1996 年より OSCE 評価等を中心に行われてきたが、この評価者トレーニングも倫理観を備えた医療技術の組織的教育を主体とするものであり、医学生および研修医に対しての適切な教育技法を提供するものと考えます。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、東京医科大学の「正義・友愛・奉仕」の建学の精神をもとに、良医育成を目指して、客観的臨床能力を評価するシステムを完成させようとする、平成 9 年から実施されている取組です。アドバンスト OSCE の 5 年次臨床実習の総括的評価としての導入、評価者トレーニングのための FD の平行した実施など意欲的に実施している点は評価できるものであり、申請書の将来展望に記載されているように、国家試験に導入しうるようなアドバンスト OSCE の開発は他大学等への影響も大きく、社会の要請にも十分応える優れた取組であると認められます。</p> <p>また、この取組は、国家試験としても使用しうるような試験内容の充実と評価システムの確立という挑戦的な課題を抱えていますが、これを克服し更なる発展を遂げることが期待されます。</p>			